

会 議 録

会 議 名	平成28年度 第2回 根室市子ども・子育て会議
開 催 日 時	平成29年2月23日（木）午後6時00分～午後7時10分
開 催 場 所	根室市総合文化会館 2階 第2講座室
出 席 委 員	山谷会長、宇井副会長、遠藤委員、木根委員、乱橋委員、岡田委員、高橋委員、幸坂委員、石田委員、能村委員、久山委員、瀧屋委員、平賀委員 以上13名出席
欠 席 委 員	塩原委員、中下委員、成田委員以上3名欠席
事 務 局	佐々木少子化対策推進室長、前田少子化対策推進主査 谷口こども子育て課長、本波こども子育て主査、猪口こども子育て課主任 齋藤社会教育主査

【概要】

1. 開会

2. 山谷会長挨拶

・根室市では、これまでも3子目以降の保育料の無料化など、子育て世帯の経済的な負担軽減を中心に取り組んできました。

また、先日、経産婦のみとなりますが、市立病院での分娩が4月から再開となる報道があるなど、この2、3年の間に、子育て環境が大きく前進しているという印象を持っており、この会議での意見を汲み取っていただいた結果であると思っています。

本日も安心して子どもを生み、育てられる環境づくりに向けて、皆さんと考えていきたいと思っています。

3. 報告事項

(1) 根室市子ども・子育て支援事業計画に基づく平成29年度の取り組みについて

- ・「第5章 施策の目標に掲げる事業の新規・拡充などについて」

資料1に基づき説明【少子化対策推進主査】

- ・「根室市保育所適正配置計画」について

資料2に基づき説明【こども子育て課長】

【質疑・意見交換】

(就学援助費)

●委 員：就学援助費のうち新入学児童生徒学用品費の入学前支給について、いつからの取り組みとなるのか。

○事務局：新入学児童生徒学用品費の入学前支給は、教育委員会で詳細を検討している最中です。

(放課後児童教室・留守家庭児童会)

- 委員：北斗放課後児童教室では、100名を越える児童が利用していると伺っていますが、定員の20名増(90名)では、利用人数に対し、足りないと思いますが、どうでしょうか。
- 事務局：定員を定めているのは、ランドセルを持ったまま利用できる留守家庭児童会であり、帰宅してから放課後児童教室に来る一般利用の児童は、この定員には含めないため、平成28年度においては、100名を超えているという認識はありません。また、平成29年度においては、90名の定員以内に収まっています。

(障がいのある子どもへの対応・乳幼児健診)

- 委員：障がいのある子どもに対し、以前は、特別支援教育経験者1名が市内3つの放課後児童教室を巡回していると聞いていたが、現在の体制はどのようになっているのか。
- 事務局：特別な支援が必要な児童への対応は、支援員は1名が3つの放課後児童教室を巡回し、それぞれの指導員へ指導を行っており、また、北斗と花咲には臨時の指導員を配置し、対応している状況であります。
- 委員：乳児(新生児)健診で「聞こえの検査」(スクリーニング検査)を行っていないと伺っているが、他都市でも実施しているところもあり、今後、実施に向けて検討していただきたい。
実際にあった事例では、2人のお子さんがいる家庭で、お兄ちゃんは乳幼児健診の聴力検査では異常が見つからなかったが、1歳半頃に風船の割れた音に反応しないことがあったため、市立病院で受診し、釧路で精密検査を受けることとなり、聴覚異常が分かった。また、兄の検査に合わせて弟もスクリーニング検査を行い、聴力の異常が判明した。
早く分かったことで、言語獲得時期がスムーズに流れていくことに繋がったので、早い段階で対応が必要であると感じた。
- 事務局：現在は実施していないと把握しています。詳細は、庁内で検討し、お答えしたいと思います。

(学校給食)

- 委員：学校給食において、調理場が老朽化で困難なこともあるかと思いますが、地場産品の提供ということで、父母からは焼き魚を提供してもらいたいとの声もあり、どのような形となるのか教えてもらいたい。
- 事務局：ふるさと給食の提供するメニューは、これから栄養士さんなどと協議を行い考えていくこととなっております。また、市内の企業からの提供となるため、同じ日に全ての学校へふるさと給食を出すことは難しい場合もあり、1週間の中で、学校毎に分けて提供することも考えられる。詳細は、教育委員会に伝え、お答えしたい。

(子育て支援員・保育士の確保)

- 委員：子育て支援員について、現状として保育士や幼稚園教諭の不足が続いている中で、へき地保育所での通年開所や3歳未満児の受入などで更なる保育士の不足が懸念される。睦の園幼稚園でも1名の募集で、大変苦労した。

保育士の不足は根室だけに限らず、全国的な問題であったことから、今年度、幼稚園で働いている資格を持っていない職員2名に子育て支援員の研修を受けてもらった。札幌の研修会場には、500名ぐらいの子育て経験者や、幼稚園などで働いている資格の持たない方が来ており、研修は20～25時間程度で、現場実習などを行う基本的なものであった。

これから、資格を持っている方だけで、現場対応していくことは難しいと予想されるので、根室でも子育て支援員という制度を多くの人に知ってもらい、それによって若いお母さん方の働く場所が増えたり、子育てに関心をもってもらうことが可能となるのではないかと。

また、資格を持っている職員の補佐的な仕事として取り組んでもらうことで、保育の質も向上すると思いますので、導入に向けて検討していただきたい。

- 委員：保育士の募集も出ていたが、平成30年度の通年化に向けて、保育所の適正配置の関係あるが、保育士の確保に向けた取り組みを教えてください。

○事務局：まずは、平成29年度をスタートできるよう募集、そして、採用といった形で準備を進めております。現在のところ待機児童を出すことなくスタートできると見込んでおります。

子育て支援員の関係は、道内の子育て関係課長職会議などでも研修会場が札幌のみとなっている現状に対し、地理的なハンディを解消することが必要でないかといった意見が出ている。

そのため、釧路や旭川などといった中核都市での開催など、もっと多くの地域で開催するよう北海道へ要望している。

ただ、民間も含めて、保育士等の確保に苦慮しているとの実態があるので、何とか良い方法を見つけていきたいと考えています。

- 委員：保育士不足の問題は、全国的な問題であり、待機児童を出さないためにも保育士の確保は、国を挙げて取り組んでいるところであり、研修会場が札幌のみのため、遠くて研修を受ける人が増えないということであれば、釧路などの中核都市で開催してもらおうなど、解決に向けて北海道などへ働きかけてもらいたい。

4. その他

【意見交換】

- 会 長：子育て全般に係わる意見交換を行いたいと思います。ここでの発言が今後の根室での子育て環境の改善につながることもありますので、積極的に発言をお願いします。

（障がいのある子ども・専門職の配置）

- 委 員：根室市では、言語聴覚士や心理士といった専門職は常駐しておらず、派遣で賄われている状況である。児童デイサービスセンターには、そのような資格を持った方に毎月来てもらい療育支援を行っているが、小学校へ入学したお子さんに対しては、継続して支援することができない契約となっている。

そのため、小学校入学後は、子ども発達支援事業などを活用することとなるが、相談などの頻度が少なくなり、また、希望者全員が必ず相談・支援を受けることができるとは限らないため、医療機関へかかるまでの必要がないお子さんは、その後、支援を十分に受けることができない、また、専門的な見地から診てもらいたいというときに希望が叶わないといったことがある。

この場での検討課題になるかわかりませんが、言語聴覚士や心理士については、乳幼児のことばの相談などを含めて、専門的な知識を持っている方からのアドバイスや、乳幼児健診などで生かされることがあれば、職員としての雇用も考えて良いのではないかと思います。

- 委 員：以前は、根室市でも言語聴覚士がいたことがありますが、現在は、いない状況が続いており、小学校入学後は、美幌の言語聴覚士などに来てもらっているが、年に1回受けることができるか、できないかという状況であり、低学年のうちからしっかりと訓練を受ける必要がある。

また、言語に限らず肢体も理学療法士などの訓練が必要であり、将来的には根室市として、言語聴覚士や理学療法士などを配置し、学校や保育所、幼稚園を訪問するなどを検討していく必要があると思います。

- 委 員：児童デイサービスセンターの利用者は、小学校に入学してしまうと、子ども発達支援事業での限られた日のみと対応となるため、希望が殺到してしまい、月に1回受けることができるか、できないかといった中で、就学前と就学後の違いに不安を抱えている状況である。

しかし、専門職を市で雇用することは、予算の関係もあり、難しいということであれば、派遣回数を増やすなどの対応をしてもらえれば、学校現場、そして、保護者の不安解消に繋がるのではないかと。また、件数も増えてきているので、今後の検討課題であると考えています。

また、児童デイサービスセンターでの療育支援の内容について、手続きを行った後、教育委員会（小学校）へ継承してもらえれば、小学校の段階でスムーズな対応が可能となり、中学校に上がっても改善が見られるなどより良い環境をつくることが可能となるのではないかと。

なお、教育委員会に支援員を配置するなど、ここ数年の間で、子育て環境が改善してきていることは間違いと思います。

○事務局：障がいのあるお子さんの対応については、教育委員会や社会福祉課へご意見を伝えていきたいと思います。

(祖父母への子育てガイドブック)

●委員：現在、姪っ子の子どもを見ることがある。親には母子健康手帳が配布されるが、祖父母にも母子健康手帳のような子育てガイドブックを配布してはどうか。

子育ての仕方に限らず、産後の母親への対応（食事など）などにも昔と今では大きな違いがあり、若い人たちは、保健師などから話を聞いているから分かっているが、祖父母にはそのような機会がなく、情報が分からないため、昔の感覚で乳幼児などに接してしまい、よく注意されることがある。

○事務局：どういったやり方がよいかは別にして、根室市でも取り組んでいるのが、お子さんを持つ家庭での子育て支援、地域や隣近所でも子育て家庭を支援するような考えを持って取り組んでおり、そういう意味では、おじいちゃん、おばあちゃん世代へ今の子育てといった情報発信があっても良いと思いますので、検討してみたいと思います。

(アレルギー外来)

●委員：子どもがアレルギーを持っており、アレルギー外来が市立病院にあれば安心して子育てができるようになるのではないかな。

現在は、釧路で診察を受けており、時間や費用をかけ、また、診察が続けば、仕事を休む必要があるなど負担が多くなる。

どのように対応していけば良いかの指導もなく、今後の対応が親もわからない状況で不安を抱えている。

毎日でなくても、月に数回でもいいので、市立病院で診察できる体制になれば、そういった問題を抱えている親や子どもの不安を解消できるのではないかな。

○事務局：確かにアレルギーを持つお子さんが増えていると聞いておりますので、ご意見としてお受けし、病院へ確認し回答したいと思います。

●委員：アレルギー外来は、難しい問題であると認識しており、小児科の先生でも専門としている先生がいれば助かりますが、食事の指導などが伴うので、そこには栄養士が必要となると思います。

ただ、市立病院では、アレルギーの相談や検査は行っていると思います。

●委員：治療とまでは言わないが、血液検査を行った結果、どうなのか、どこまで大丈夫なのか、親として知りたい。また、いつ、どのタイミングで食べられるようになるのか、どのくらいの頻度で検査すればよいのか、そういったことを教えてもらいたい。

●委員：アレルギー専門の先生が月に1回でもよいので、診察してもらえれば、アレルギーのあるお子さんを持つ親は安心するのではないかな。

(保育所適正配置)

- 委員：保育所適正配置計画の関係で平成30年度の廃止に向けて、お子さんなど不安解消に向けて保育所間での交流を行っていくこととなっていますが、PTAとしてどうでしょうか。
- 委員：そういったことは、実際にやってみないとわからない部分がありますが、子どもたちは上手くやっていくことが可能ではないかと思っています。もし、問題が起きれば、そのときに対処していけば良いのではないかと。
- 委員：2年間という時間がとても大事であり、これからの取り組みによって、おそらくスムーズに行くのではと考えています。
- 会長：この会議は、次回以降も続きますので、何か意見があれば、そのときに発言していただければ、また、意見を言うことで次年度の改善に繋がっていきますので、積極的に発言してもらいたい。

※事務局より

- ・子ども・子育て会議は、年2回程度の開催を予定しており、次回は今年6月の開催を予定しておりますが、事前に委員異動の調査を行いますので、ご協力をお願いします。

5. 閉会